

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 3月28日

事業所名 きらめき古堅南

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			他の部屋も使いながら利用児が安全に過ごせるようにしている。	十分に広い室内空間で過ごしています。
	2	職員の配置数は適切である	2	4		社内の他事業所と協力して小学校の送迎を行っている。	職員に急な休みが出たときは時間帯によって職員が不足することがあるため、社内他事業所にヘルプを要請して対応している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	1	絵カード表示で、入って良い場所、危険な場所の注意を促している。	建物の構造上死角や段差があるが、あえてバリアフリーではなく注意力、危険回避力を高められるよう支援を心がけている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1		日々の申し送りや事業所会議にて改善点などを確認している。	事業所会議、または日々の申し送りや申し送り帳を通して職員全体に周知徹底することで改善に取り組んでいます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		昨年からアンケートを取るようになった。	事業所会議、または日々の申し送りや申し送り帳を通して職員全体に周知徹底することで保護者の意向把握と業務改善につなげていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		昨年から公開している。	HPIにて4月公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	3	違う部署の職員に評価をして貰っている。	第3者は設置していない。保護者からのご意見を参考に改善を図ります。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1		・研修動画を見ている。 ・事業所内で事例などを元に支援の方法などを勉強する機会がある。	3月に外部講師を招いて「ことば音楽療法セミナー」を支援者向けに開催し、支援のスキルアップの研修を行う予定。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		計画書更新のタイミングに再アセスメントしている。	モニタリング内容を個別支援会議にて共有し支援計画に反映していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	1	決められたアセスメントシートで毎年確認している。	標準化されたツールがあるか不明との意見もある為、職員間での共有と活用を図る。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			職員全員が提案している。	児童の特性に合った活動、児童から要望があった活動、児童の課題に対応する活動など、遊びを通してバランスよくプログラムを立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			利用児にリクエストを聞いたり、職員の提案を出し合って決めている。	児童が飽きないように活動に変化を持たせていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	2		休日は平日にはできない外出活動なども実施している。	高学年は平日の利用時間が短く、活動プログラムに集中して取り組むことができていないため、休日や長期休みを利用してじっくりと課題に取り組めるよう環境や時間を設定していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		毎月活動プログラムの見直し、支援計画の確認を行っている。	利用児の希望も聞きながら、個別活動と集団活動の実践していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			朝礼、昼礼をしている。	昼礼を行い、前日の振り返りと当日の予定の確認、情報共有を行っている。昼礼に参加出来ない職員には前持った情報共有や職員間のグループLINEを用いて確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	1	終礼は持つ時間がないが、翌日の朝礼で情報共有している。	退勤時間が異なる為、急ぎの内容によっては緊急ミーティングを行い、申し送り帳の活用もしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		・毎日担当により、児童記録日報を作成している。	日報に記載されている内容を支援会議にも役立てていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			定期的なケース会議を行っている。	朝礼、昼礼で児童の変化や個別支援計画に基づいた支援方法の一致を確認するようにし、期間を決めて評価を行いながら支援計画の見直しを行っていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	2		ガイドラインの基本的活動に合わせたプログラムを実践している。	全職員にガイドラインの周知を徹底したい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			児発管の研修を受けている者が参加している。	児童発達管理責任者もしくは児発管研修を受けた職員が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	2		主に保護者より学校の情報共有をしていただいている。トラブル時は早急に対応をしている。	申し送りにて情報共有し保護者へ確認対応を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				当事業所では医療的ケア児の受け入れは行っていない。	医療的ケア(見守り程度)の児童を受け入れる場合は、担当者会議や指示書をもとに行う。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2		相談員さんを通して情報を共有している。	担当者会議にて就学前の様子などを聞き取りしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3	2	保護者さま同意の上、情報をまとめて共有している。	担当者会議にて当事業所での様子を伝えている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	2	研修などに参加している。	今年度は読谷村社協主催の「ペアレントプログラム」に指導者養成目的で参加。今後も療育に関わる専門的な研修に参加したい。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1	2	・活動プログラムに組み込んでいる。・毎月1〜2回、地域の児童館を利用している。	定期的な児童館利用に加え、地域のテニスコート、公園、バスケットコートなどを利用している。偶然出会う子どもと一緒に遊ぶ機会も良い交流の体験となっている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			4	2	社内の参加している職員から情報共有してもらっている。	現場との調整ができず不参加が続いている。出来る限り参加できるように人員配置に工夫を行っていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1			送迎時での申し送りや、モニタリング会議、LINEなどで連携を取っている。	困り感や家庭での様子を聞き取りながら、共通理解を図っていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	2		ペアトレの案内をしている	ペアレントトレーニングという形まではいかないが、当所での成功例をあげ子どもへの促し方などを話し合っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1			契約時の保護者面談で、説明を行っている。	職員全体で説明ができるよう研修などを通して学んでいく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6				事業所側からも定期的に困り感などはないですか?と声をかけている。	保護者の悩みは常に聞き入れながら、必要時には面談を行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	1		開所して一度保護者交流会を開催した。	今年度はコロナ禍の為開催できなかったため、感染防止を徹底し行える企画を立案する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6				・苦情ボックスを設置している。 ・苦情があった場合は、迅速に対応している。	苦情内容について職員全体で検討し、再発しないように改善していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		1		公式LINEにて発信。	毎月の活動プログラムやLINEにて保護者との情報共有を行っている。
	35	個人情報に十分注意している	6				鍵付きの書庫に入れて保管している。	個人情報に関する書類は、鍵付きのキャビネットにて保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6				意思の伝達は必ずしも言葉とは限らないよと伝えている。	子ども達には、絵カードや手話・ジェスチャーなどを用いて情報をわかりやすく伝えている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5	1		隣接している介護施設と交流会を行っている	感染状況をみながら、地域交流の場を設定していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			マニュアルを策定し、職員間で周知。	今後、訓練を実施していき保護者の皆さまにもお伝えしていきたいと思います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			今年度は4回の避難訓練を行った。	職員向けに心肺蘇生法の訓練を行いました。次年度は5月と11月を社内防災訓練月間とし、その間にも事業所単独で非常時災害訓練を予定している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			年に数回虐待の研修を行っている。	虐待に関する研修を今後も定期的に開催していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1	1	事前に同意書、契約書で説明。	身体拘束を必要とするケースはない。基本、身体拘束をすることは考えていないが今後、身体拘束が必要となった時には、組織・保護者と連携し計画的に行っていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3	1	アレルギーがある子は家庭の指示のもと対応している。	アレルギーをもつ児童は在籍していないが、アレルギーがある子を受け入れたときには、医師の指示書に基づいて対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		2	毎月ヒヤリハットがないか確認している。	ヒヤリハット発生後すぐ事業所内で情報共有を行い、支援の見直し改善策を話しあい、家族、関係機関とも情報共有を行うようにしている。